

〈能なしワニ⑤〉

続・ワニよ銃をとれ

中井紀夫



人文学部卒，作家 主著書「南から来た拳銃使い」「裏切り砦の拳銃無頼」「恋の拳銃無宿」「ワニよ銃をとれ」（以上早川書房刊）

NV=Novel

NF=Nonfiction

Jr=Junior

FT=Fantasy

YR=Young Romance

GB=Game Book

能なしワニ⑤

続・ワニよ銃をとれ

〈JA273〉

昭和六十三年七月十日 印刷
昭和六十三年七月十五日 発行

（定価はカバーに表
示してあります）

著 者 中 井 紀 夫

発 行 者 早 川 清

印 刷 者 矢 部 富 三

発 行 所 株式会社 早 川 書 房

郵便番号 一〇一

東京都千代田区神田多町二ノ二
電話東京（二五）三一一（大代表）
振替口座番号 東京六一四七七九

乱丁本・落丁本は本社またはお買求めの書店にてお取替えいたします。

印刷・三松堂印刷株式会社 製本・株式会社川島製本所

ISBN4-15-030273-1 C0193

ハヤカワ文庫JA

〈JA273〉

能なしワニ⑤

続・ワニよ銃をとれ

中井紀夫



早川書房

2447

日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

カバー／口絵／挿絵

沖 一

目次

第一章 黄金滝 9

第二章 パイヤト族の聖地 139

第三章 ワシイトオ・タウンの決闘 261

あとがき 413

てる大陸

バージニア宇宙港

ポカホンタス・シティ

初期植民地群

まっすぐだと思ったら
曲ってるリバー

フォート・ジョン・ブラウン

蚊に食われ金山

↑
至 帰ってもいいよ山脈

ニッチモサッチモ・ヒルズ

ゾオゾオ・ヴィル

鋸山

ワシットオ・タウン

シーザーズ・パレス

サウス・スター・リバー

黄金滝

ラクストン牧場

おやすみ恋人
ヒルズ

腹減ったウォーターズ

行けば行くだけ広がっ

ナッツの聖地

いい加減トレイル

パープルヘイズ
なんて奴だ山脉

ナッツの聖地

行つたつきり
トレイル

もひとつあくび
平原

ダオダ・シテイ

ナッツの聖地

ワシトオ・タウン

ナッツの聖地

ツームーン

ヒヤアナンテ・マツシロケナコツタ山脉

■ 第二の宇宙港

グ
ラ
ン
ド
・
グ
ラ
ン
ド
・
キ
ヤ
ニ
オ
ン

続・ワニよ銃をとれ

登場人物

ワニ……………能なしの拳銃使い
クサフリ……………ワニと組んで放火能力を発揮する男
マリエ……………ワニたちの能力を増大させる力をも

つ酒場女

ビート……………牧場主。元保安官
キース……………ビートの弟
ローラ……………女教師。ビートの恋人
ジョニー……………牧童頭
モンタナ……………なんでも屋
ムーンシャイン……………カルロスの元子分
トゥータフトゥーダイ……………巨漢の賭博師
ハリー……………保安官
ミカ……………少女アンドロイド
ジョージ……………酒場の主人
カルロス……………ギャングのボス
フリオ……………カルロスの弟
ホセ……………カルロスの子分。拳銃使い
尻尾怖い……………ショホニ族の酋長
ママンティ……………オロホワ族の呪術師
カウマネク……………パイヤト族の使者
ホネトマト……………パイヤト族の酋長
コートニー大佐……………騎兵隊の司令官

第一章 黄金淹

1

ワシイトオ・タウンの人々はふるえあがっていた。

なにしろ、カルロス・ラブレスの弟をとつかまえて、留置所にぶちこんでしまったのだ。ただではすまない。

みなそう思っていた。

婦人たちは極力外出を控えていた。やむをえず戸外へ出るときは、通りひとつ横ぎるにもあたりをきよろきよろと見まわし、物陰を気にしながら、思わず急ぎ足になった。いつカルロスが弟のフリオをとり返しに来て、町のなかで暴力沙汰が起こるかもしれないのだ。それに巻き込まれてはかなわない。

げんに、保安官のハリー・ニューボーンが殺し屋に襲われ、あわやという目にあってもいた。見たものの話では、殺し屋は念力で剃刀を飛ばす能力者で、ハリーはバジャマを穿いた尻に

十数枚の剃刀をつぎつぎに突きたてられ、泣きわめきながら剃刀を抜いては走り走っては抜きしつゝ町中を逃げまわったあげく、教会に飛びこんで難を逃れたが、そのときには尻に剃刀のよろい鎧戸ができてあがつていたという。

事実はそうではなく、ハリーは足に多少の切り傷を負っただけであつたし、そのときバジャマを着てはいなかったが、史上もつともバジャマの似合う保安官と定評のあるハリー・ニューボーンのエピソードとしては、バジャマの尻に突きたつた剃刀を抜きながら逃げまわる姿が似つかわしく、「見たものの話」を信じないものはなかった。「見たものの話」というのは、たいてい「見たものの話を聞いたやつのお話」であり、「見たものの話を聞いたやつのお話」はもちろん「見たものの話を聞いたやつから話を聞いたやつのお話」であることは、だれでも知っていることではあつたけれども。

「自分がフリオをつかまえたわけでもないのに、尻に剃刀の鎧戸を作られてはたまらない」見たものの話を聞いたものも見たものの話を聞いたもののお話を聞いたものも、みなそう思い、カルロスがどう出るか、戦々恐々としていた。

なかでももっともふるえあがつていたのは、ワシイトオ・タウンの町長である。

「ビートのやつはまったく懲りていなかったというわけか」

シーザーズ・パレスのカウンターでぬるいビールのジョッキを傾けながら、町長のウォルター・マクドナルドは言った。

カウンターのなかで、シーザーズ・パレスの主人ジョージ・メイブルリーフが眉を八の字にした、困ったような、泣いているような顔でうなずいた。

「町のこともすこしは考えてもらいたいな」町長は言った。「困ったもんだ。カルロスに上納金を納め、カルロスのご機嫌をとっているから、ワシイトオの町は平和なんだ。それを、カルロスの弟をつかまえて、保安官につきだしちゃったんじゃないか、どうにもならないじゃないか。カルロスとけんかしたって勝ち目はない。それはビートだって身に染みて知っているはずなのに」

「髭にビールの泡がついたよ、ウォルター」

ジョージは泣いているような顔でうなずきながら言った。

町長は下唇をつき出し、目を寄り目にして、口髭に向かってふうふうと息を吹きかけた。

「まだだよ。まだ右の端についてる」

町長は唇をゆがめて髭の端めがけて息を吹きかけた。

しばらくのあいだ、夢中になって吹きつづけてから言った。

「ビールの泡がつかないような髭カバーを作ったら売れるかもしれないな」

「え。なに」

「髭カバーさ」

「髭カバー？」

町長はうなずいた。

「このまえ、食事のときのための髭クリップを作ったら、けっこう売れたんだ。洗濯挟みに紐を付けただけのことなんだけどね。髭の両端を洗濯挟みで挟んで、紐で引っ張るようにして耳に掛けておくと、スープを飲むときに髭がじゃまにならない」

「ああ、あれか。覚えてるよ。おれにも売りつけたじゃないか」

「便利だったろう」

「一回使ったけどね。いっしょに食事をしたやつが笑いころげて食事にならなくなっちゃった」

「失礼なやつだな」

「いや、それほどでもないと思うよ。あとで鏡を見て自分でも笑ってしまったもの」

「ファッションになると思ったんだがな」

「むずかしいだろうね。それに、食事はだれでもするけど、ビールはだれでも飲むってわけじゃない」

「そうか。売れないかな」

「まあ、試しに二、三個作って置いてみたら」

「うむ」町長は思案するように首をかしげた。

町長は町長であるまえに、まず雑貨屋の主人であった。ワシイトオのメイン・ストリートに

店を構えている。

ジョージは空いたジョッキにビールを注いだ。

町長はそれを一口飲んで、

「なんとかならないもんな」

「さあ、いつもウイスキーを飲むやつにむりやりビールを飲ますわけにもいかないよ」

「いや、ビートの話さ」

ジョージは、ああそうかというように眉を上げ、すぐに泣きそうな顔になってうなずいた。

「ビートをけしかけたのはなんとかいう流れものだったな」

それまで、町長のとなりでふたりの話をだまって聞いていた男が口をはさんだ。町長の雑貨

屋のとなりにある床屋の主人であった。

「ワニ」ジョージが流れものの名を言った。

「ここに雇われていたやつだよ」床屋の主人はわけしり顔で言った。

ジョージはいよいよ泣きだしそうな顔になった。

ラクストン牧場の牧場主ビート・ラクストンがフリオ・ラブレスをつかまえたとき協力したのが、ラクストン牧場に身を寄せていた流れものの拳銃使いワニであった。フリオはビートの恋人であるローラ・シルバーヒールズに横恋慕して、なにを血迷ったかラクストン牧場のロングホーン・トカゲを暴走させ、その現場を押さえられた。